

6/27

1日目 土

会場

ザ・ヒロサワ・シティ
会館 大ホール

[茨城県立県民文化センター]

13:00～17:00

記念講演

13:40～

ジェンダー視点で日本の
社会保障を考える

清山 玲

茨城大学人文社会科学部教授

慶應義塾大学経済学研究科後期博士課程単位取得退学、高知大学講師、助教、茨城大学助教授を経て2005年より現職。労務理論学会会長、日本労働社会学会代表幹事、茨城地方労働協議会会長、茨城県少子化審議会会長、同総合計画審議会委員等歴任。現在は、過労死防止学会副代表、厚生労働省過労死等防止対策推進協議会委員、茨城地方最低賃金審議会会長、県・県内自治体の男女共同参画審議会会長。



基調フォーラム

14:55～

2040年に向けた新たな地域医療構想は、
医療・介護・福祉現場に何をもたらすか

〈コーディネーター〉

長友 薫輝
佛光大学教授

〈パネリスト〉

加賀美 理帆
茨城民医連会長・
城南病院医師簾内 信行
翠清福祉会・
専務理事安本 真理子
茨城県厚生連労組書記次長・
全厚労医療研前委員長

6/28

2日目 日

分科会

9:30～16:00

会場

ザ・ヒロサワ・シティ会館 集会室等

[茨城県立県民文化センター]

第1分科会

地域を守る公共インフラとしての
医療・社会保障の在り方を考えよう

2027年度より始まる「新たな地域医療構想」が目前に迫るなか、経営難や人材不足による病院の統廃合や病棟閉鎖、診療所の廃止による医療の空白が全国で発生しています。地域医療をめぐる今後の政策動向を学び、患者・住民の命と健康、暮らしを守る実践を交流し、医療を軸として社会保障のあるべき姿を考えた分科会をめざします。

第2分科会

健康づくり活動を地域住民とともに

—「孤軍奮闘」から「ともにつくる」への転換—

多忙を極める医療・介護現場において、専門職が孤軍奮闘し地域の健康課題に向き合うことには限界があります。現場からの実践報告を中心に、多様な団体が連携するための工夫や課題解決のヒントを共有し、医療・介護の枠を超え、地域住民や他団体と手を取り合いながら地域の健康を守るため課題解決の糸口を探ります。助言者として新潟大学の村山敏夫准教授をお呼びし、スポーツ科学の知見からエビデンスに基づいた持続可能な活動のあり方を深掘りします。地域とつながり、健康づくりの活動を広げたいと考えている皆様、ぜひご参加ください。

第3分科会

人権が守られるより良い看護

国の政策により多くの医療・介護事業所が赤字経営となり、ケア労働者の賃金が上がらず、労働条件も悪化していく中、より良いケアをしたいと希望を持ち続けることも、誰もが安心して医療・介護にかかることも難しい状況です。誰もが安心してケアを受けられるためにどうしたら良いか、看護・介護の実践報告や労働環境改善の取り組みレポートを募集します。どうしたら「より良いケア」を提供できるかともに深めましょう。

第4分科会

これからの精神医療を考える

現在、日本の精神医療は「入院医療中心から地域生活中心へ」のもと、精神科病院では2025年度の補正予算や2026年の診療報酬改定においてダウンサ

イジングや急性期・地域包括ケア病棟への誘導、地域定着のための連携強化などが進められると思います。

精神医療の地域生活の充実、世界各国から大きく遅れをとる日本において、進むべき方向性ではありますが、2027年から取り組みが開始する「新たな地域医療構想」までの準備期間であるこの2026年は、精神科病院関連で働く私たちにとって大切な年であることは疑いようがありません。その為、精神医療の現状と国の施策を理解し、理想を追求し雇用を守っていくかなども含め皆さんと考える機会になればと思います。

第5分科会

患者のための臨床検査

臨床検査の仕事で困ったことや不安なことはありませんか?そんな悩みを全国の仲間と楽しく気軽に語り合しましょう。問題解決への道が開かれる可能性があります。この分科会では、レポート報告と課題別討論(労働条件、人材育成、夜勤体制、採血業務、業務拡大、タスクシフト関連等)を予定しております。皆さんの参加とレポート発表をお待ちしています。

第6分科会

病院・介護・福祉施設における給食の現状と改善をめざして

給食分科会は、医療・介護・福祉の現場で働く「食」と「健康」に係わる全てのスタッフが知識と経験を共有する分科会です。何処にでもある困難だらけの職場からの工夫・実践のレポート報告を中心に分科会を運営したいと思います。同じ困難を理解し分かち合える、有意義な学習・交流の場となる事を期待しています。

第7分科会

「労働者」のいのちと健康を守る活動を考える

雇用の多様化や人手不足などを背景に、職場環境や労働条件の悪化は深刻化しており、労働者のいのちと健康を脅かす要因を取り除く取り組みは一層大切です。こうした取り組みの“風土”をつくるためには、労働組合が積極的に労働安全衛生について学習し、啓発していく必要があります。この分科会では、職場の労安活動のレポート報告を軸に、労安活動の意義や実践について討論を行います。

第8分科会

介護分科会

介護保険制度は発足して26年になります。私たちは、利用者の「生活の場」である介護現場において、日々人権と個性を尊重するケアを実践し介護の質の向上を目指してきました。私たちは、会って、話して、聴くことを大事にする専門職です。私たちが集まり日々のケアを振り返ることで「明日からも頑張ろう」と思えたら、利用者の笑顔も増えるでしょう。施設系、在宅系、ケアマネなど、業態を問わず介護現場で働く方なら職種不問、学生も歓迎です。

第9分科会

「放射線医療従事者の職場環境と他職種連携に向けて」
夜勤の実態や休暇制度、人員配置について考える

放射線従事者の労働実態を把握し改善に向けての討論を行います。また夜勤実態や休暇制度に伴う人員の配置数についても考えます。また看護師等の他職種との連携などについての議論も深めます。

第10分科会

わたしたちが大切にしたい保育 —院内保育所のあり方—

病院内保育所で働く私たち。保育士の働き方って…このままでいいの?〈昨年、病院内保育所補助金の保育士単価が12年ぶりに増額改定のビックニュース!〉〈人件費へ反映してもらうためにどんな取り組みしたいの?〉〈保育士が続かないのはどうして?〉〈保育のこともっと知りたいな!〉〈書類や計画どんな様式?〉〈各園どうしてるの? あんな事、こんな事、困っていませんか?〉〈あれこれ! みんなが知りたい内容を語り学び合いませんか?〉保護者の方々はもちろん、院内保育所や病院で働く職員の方、労働組合の方からの参加もお待ちしています。

第11分科会

リハビリテーションの現場で求められるもの

リハビリテーションは従来の医療・介護・福祉の領域だけでなく、地域包括ケアシステムの中でも重要な役割を担っています。私たちが患者、利用者一人一人の人権の回復や生活をより豊かにするために日々頑張っていること、また社会情勢、社会保障制度等の改定に伴って変化する職場環境や労働条件について全国の仲間と共有、討論し、明日からの実践に繋げていきましょう。

第12分科会

薬と社会

2026年度診療・調剤報酬改定、長期収載品の選定療養、薬剤師の偏在・病

院薬剤師の不足、医薬品供給不安の長期化、DX化への対応、HPVワクチン定期接種の積極的推奨再開、薬害問題、オーバードーズ、薬物乱用、ポリファーマシー、残薬問題、医薬・薬業連携、医薬品評価など、様々な薬剤師活動や現場の問題について、実態や経験を持ち寄り交流しましょう。積極的なレポート報告と参加をお待ちしております。

動く分科会(バス1台・先着40名)

9:00 水戸駅南口・バス乗り場6～8 集合・出発
航空自衛隊百里基地 ～ 百里平和公園 ～
筑波海軍航空隊記念館

16:00 水戸駅 帰着・解散

動く分科会の参加者は、費用10,000円(参加費・昼食代込み)

分科会レポート募集中

●内 容
分科会の問題提起に沿って日頃の実践をまとめてください。●提出先
第53回 医療研究全国集会組織委員会
レポートは医療研WEBサイトの専用フォーム
から提出してください。

●締 切 5月31日(月)まで

医療研究集会の魅力は、集会2日目の分科会討論です。全国の経験を持ち寄り、テーマ別に「レポート」に基づく討論と交流を行います。

参加お申し込み方法

参加・宿泊のお申し込みは、医療研WEBサイトにて受け付けています。代表者がまとめてお申し込みいただくことも可能です。

※日本医労連や日本医療総合研究所宛でのメールやFAXでのお申し込みは、受け付けておりません。

医療研に関する情報は随時、
公式WEBサイトで発信しています。<https://iryoken.jp/>